

**2050年カーボンニュートラル実現のための  
基地港湾のあり方に関する検討会（第5回）  
議事要旨**

**1. 日時**

令和4年2月17日（木）13時00分～15時00分

**2. 場所**

オンライン開催

**3. 議題**

(1)第4回検討会におけるご意見と対応方針について

**委員**

- P3「基地港湾指定から供用開始までのスケジュール」の表において、「供用開始」と記載があるが、風力発電の供用であるとの誤解を招かないように、「基地港湾供用開始」などという文言の方が良いのではないか。
- また、同頁のリード文の最終行において、基地港湾整備が「概ね5年間となっている。」とあるが、今回の検討の前提とした条件であるので、「概ね5年間としている。」とした方が良いのではないか。

**事務局**

- ご指摘を踏まえ修正する。

(2)検討会とりまとめ資料について

○資料3 2050年カーボンニュートラル実現のための基地港湾のあり方に関する検討会～基地港湾の配置及び規模～について

**委員**

- P25の表に記載のある「隣接岸壁、周辺用地」について、国が用意するわけではなく、事業者が自ら調整して用意するものとして書いておいた方が良いと考える。

**委員**

- P15について「SEP船のカバーエリア」を考慮した旨の記載があるが、どの程度を想定したのかが明記されていない。P29の面積

の評価では前提条件として「自航 SEP 船の 1 日圏（概ね 400km）」と書かれていることや、これまでの検討会でも、「1 日圏 300～400km、2 日圏 700km など」と記述した資料があったことから、P15 の矢印の下などに注書きで自航 SEP 船のカバーエリアをどのように考えたのか書いておいてはどうか。

### 事務局

- ご指摘を踏まえ修正する。

### 委員

- P20 及び P22 で洋上風力産業ビジョン（第 1 次）に示された導入目標の達成のため、必要となる基地港湾数の目安が示されているが、その整備にどれくらいの時間がかかるか書いておいた方がよいのではないか。

### 事務局

- P18 の下表が港湾の整備期間を示した表である。

### 委員

- P32 の風車大型化のリード文に \* 印で「必要な地耐力は、仮に荷重分散を 1 / 4 とする場合は 50t / m<sup>2</sup>」と書いてあり、基地港湾における地耐力と最大荷重の関係を表していると理解している。P47 について、浮体式洋上風力発電所の基地港湾に求められる機能、規模においても地耐力、最大荷重の関係を明確にした方がよい。

### 事務局

- ご指摘を踏まえ修正する。

○資料4 洋上風力発電を通じた地域振興ガイドブックについて

### 委員

- 丁寧、かつ網羅的で素晴らしいガイドブックになった。
- P1 の「1. 本資料の目的、位置づけ」において、環境影響や漁業との共生など社会的受容性が問題としてあり、それはそれで考慮しているが、大きな地域振興につながるため、本資料で扱う範囲は、いわゆる地域振興に焦点を絞っている趣旨を一言付け加える

必要があるのではないか。

### 委員

- 欧州の事例を踏まえ、日本が洋上風力発電の導入を促進していくためには、環境影響評価、モニタリングをきちんと行い、かつ国連海洋法条約にあるとおり、モニタリング結果を公表するなどが必要と考えている。そのため、環境への配慮が必要な旨も記載していただきたい。
- 資料3 P18に環境影響評価の期間が短くなる可能性がある旨の記載があるが、環境影響評価を簡単にするというわけではない点を配慮いただきたい。

### 委員

- P9の港のタイプ、特に建設拠点港、風車積出港及び保守・管理拠点港（O&M港）とP11-13の地域振興モデルのO&M拠点港の関係がわかりにくい。

### 事務局

- ご指摘を踏まえ修正する。

○資料5 2050年カーボンニュートラル実現のための基地港湾のあり方に関する検討会(審議概要)について

### 委員

- 地域振興については地域の役割が大きく、地域振興を進める仕組みづくりやそれを後押ししていく制度的なものも必要になる。

○とりまとめについて

### 座長

- とりまとめは事務局から公表周知を行う。事務局では本日の意見を踏まえて資料を修正し、委員の皆様を確認をいただき、その上で最終的なとりまとめについては座長一任とさせていただきたい。

### 全員

- 異議なし。

以 上